

■ わんぱく SMT（しづ・まち・探検）の開催

（志津わんぱく協働合校）

1 【活動の趣旨】

地域の子どもたちを主体とした体験活動を企画・運営し、地域の歴史や文化、自然に触れる活動を通して、地域に愛着を持ち、将来、主体的に活動できるリーダーの育成を目的としている。

2 【特徴的な活動内容】

「地域の宝もの」を題材に活動を行うもので、地域の小槻神社において宿泊体験活動を実施した。

大阪・関西万博の開催にちなんで「世界を知ろう」をテーマに掲げ、参加者は班に分かれて世界のカレー作りに挑戦した。アジア・アフリカ・ヨーロッパの各地域を担当し、食文化の違いや特徴について学びながら調理を行った。また、地域資源である竹を活用し、各班が選んだ国の国旗をデザインした竹灯籠を製作し、完成した作品は小槻神社へ奉納した。

さらに、世界の遊びとして「モルック」を取り上げ、竹を自分たちで加工して道具を製作し、実際に遊ぶことで、ものづくりの楽しさや協力することの大切さを学ぶ機会となった。



【グループ毎に
世界のカレー作り】



【竹を使ったモルック遊び】

3 【実施に当たっての工夫】

- ・屋外活動でもあることから、これまでの夏場開催から秋開催に時期をずらし暑さ対策を行った。
- ・OB、OGがプログラムの一部を主体的に企画してもらうことで運営に関わることの楽しさを学んでもらえるようにした。
- ・できる限り子どもたち自らが作業を行なうことを念頭に大人スタッフが関わった。



【活動風景】

4 【事業の成果】

- ・地域の歴史や文化、自然に触れる体験を通して、子どもたちが地域への理解と愛着を深めることができた。
- ・「子どもスタッフ」が企画段階から主体的に関わることで、協力する力や考える力が育まれ、リーダー性の向上につながった。
- ・活動成果を壁新聞や発表の場で共有することで、学びを発信する力が身につき、地域とのつながりを深める機会となった。

5 【事業の今後の展望】

今後の課題として、スタッフの確保と育成、ならびに事業運営の継続性が挙げられる。引率する保護者や地域の有志が段階的に運営へ関われる仕組みづくりを進め、負担の分散を図る必要がある。また、「子どもスタッフ」から中高生サポートスタッフへと成長する流れを大切に、次世代の担い手を育成することで、地域に根ざした持続可能な事業展開を目指していく。